

令和3年7月1日

学校法人 ぜんりょう学園  
専門学校 北九州自動車大学校  
校長 籠谷 正 則

## 「自己評価及び学校関係者評価結果 令和2年度版」 報告

学校法人 ぜんりょう学園 専門学校 北九州自動車大学校は、令和2年度における自己点検・自己評価を実施したのち、学校関係者評価委員会を令和3年6月15日（火）に開催し、各評価項目についてまとめた結果を学校教育法、同法施行規則並びに専修学校設置基準における学校評価に関する規程に基づき「自己評価及び学校関係者評価結果 令和2年度版」として、ここに公開いたします。

学校関係者評価委員会のご意見を真摯に受け止め、本校の教育と運営についてさらなる向上を目指し、教職員一同、努力して参ります。今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 学校関係者評価委員名簿

| 氏 名   | 所 属 先                    |
|-------|--------------------------|
| 木下 伸二 | 一般社団法人福岡県自動車整備振興会 指導部教育課 |
| 金丸 孝弘 | 株式会社ジャパン三陽 名古屋営業所        |
| 成重 哲  | 株式会社スズキ自販福岡 本社 サービス本部    |
| 宮本 達也 | 宮本商事                     |
| 樺枝 浩志 | 本校同窓会副会長                 |

(1) 教育理念・目標・人材育成像

| 評価項目                           | 具体的取組  | 自己評価 | 課題と改善策  | 評価委員会の意見 |
|--------------------------------|--|------|---|----------|
| 1-1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか    | 理念は学園創立者の建学の精神「自主独立と新開拓者精神（ノヴァフロンティア）」として示され、この精神に沿って、教育目標・育成人材像は、自動車整備に関する学術理論実施技術を指導教育し、人類社会の福祉に貢献する有能な技術者を育成することと明確に学則に定め、学生便覧等で教職員及び学生に周知徹底している。また、各学科における具体的な学修成果や学生が身に付けるべき資質・能力について、ディプロマポリシーを定め、本校ホームページに公表している。 | 4    | 現在の取組を継続する。   |          |
| 1-2 学校における職業教育の特色は何か           | 実践的な自動車整備士を育成するため、実務経験豊富な多くの教員を配し、また、企業と連携した実習・演習を実施している。さらに、広い視野を持った自動車整備士を育成するため、ビジネスマナーやコミュニケーション能力を高めるソーシャル検定（JAMCA）、福祉車両取扱士などの資格取得に取り組んでいる。   | 4    | 企業と連携した実習・演習をさらに強化して行きたい。また、有用な社会人となるために必要な「社会人基礎力」とともに、「人間力」の養成にも努めたい。 |          |
| 1-3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 社会のニーズである高校生から見た魅力ある学校づくりと、自動車整備技術の高度化に対応できる人材を育成するために、平成 30 年度に一級自動車整備科と二級自動車整備科のカリキュラム   | 4    | 国土交通省が主体となって継続審議されている「自動車整備技術の高度化検討会」の今後の動向に注視しなければならない。特に当検討会の         |          |

|  |  |   |   |  |
|--|--|---|---|--|
|  | <p>とそのシラバスについて全面的に見直しを行った。本カリキュラムは、令和2年度に完成年度を迎えた。なお、魅力ある教育と業界で必要とされる技術者養成をさらに推し進めるため、毎年度開講した全科目のシラバスを公開している。また、令和2年4月1日施行の特定整備制度を先導していくことも社会的使命と認識し、養成施設としては県内初の特定整備の認証を受けた。入学者数減少に伴う長期的な将来構想については、今年度教員組織内に新たに運営部を立ち上げ、主体的かつ計画的に募集活動を開始した。</p> |   | <p>「自動車整備資格等見直しWG」では、自動車整備士の資格体系や養成課程の見直しについて議論が行われている。このことを鑑みれば、数年以内に過去に経験のない変化が求められることは明白である。外的要因の変化と本校の強みを熟慮した継続的かつ差別化できる将来構想を検討する必要がある。</p> |  |
| 1-4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか    | <p>学校の教育目標や育成人材像については学生便覧に明示し、学生や保護者に周知している。また、学校の特色や現状での将来構想については、学校新聞や本校ホームページに公開している。</p>   | 4 | <p>現在の取組を継続する。</p>  |  |
| 1-5 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | <p>年に2回、定期的に自動車関連企業からのニーズをヒヤリングし、その結果をシラバスに反映させることにより、育成人材像を改善している。また、インターンシップや企業と連携した実習・演習を実施することにより、教員及び学生は業界のニーズを肌で感じ取っている。</p>   | 4 | <p>年々企業との連携が密になっており、様々な機会を設け、成果ある教育活動に発展させたい。一級4年生にはインターンシップを実施している。また、現在、1年生は希望者のみ、2年生は受入れ可能な企業へ依頼してインターンシップを実施しているが、その輪をさらに広げ、</p>            |  |

|  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|
|  |  |  | <p>低学年から実践教育を通じて学生自身が企業のニーズを汲み取れる環境をさらに整備したい。しかし、令和 2 年度は新型コロナウイルスの感染予防の観点から、インターンシップの低学年への実施や評価委員会からの提案であった專業整備工場への学生派遣の検討を逸してしまった。次年度以降、コロナ禍の収束を待って検討を開始したい。</p> |  |
|--|--|--|--|--|

自己評価点数 4 : 適切、 3 : ほぼ適切、 2 : やや不適切、 1 : 不適切

#### 課題と今後に向けての考え

- ・ 育成人材像を明確化するため、ディプロマポリシーを作成・公開しているが、学生への周知の徹底と社会的評価を踏まえた改善を検討したい。
- ・ 将来構想については、年度ごとの計画が立案遂行され、教職員には内容の周知を行っているが、長期的将来構想についても検討を重ねたい。
- ・ 全科目のシラバスを公開しているが、引き続き業界の意見を聞きながら、社会のニーズを更に取り入れた授業内容に改善して行きたい。
- ・ 教育目標や育成人材像は、社会のニーズとともに大きく変化していくと考えられる。自動車業界は CASE によって近未来のクルマ社会の方向性が示されている。また、自動車整備業界では、法律の改定に伴い自動車特定整備制度が令和 2 年 4 月より施行され、数年後には、車載式故障診断装置を活用した検査（OBD 検査）も導入されることになっている。本校は、このような大変革の時代に向けた整備士を養成する教育機関として、監督官庁や整備業界の動向を注視しながら更なる教育内容の改善を図って行く。

(2) 学校運営

| 評価項目                              | 具体的取組   | 自己評価 | 課題と改善策   | 評価委員会の意見 |
|-----------------------------------|---|------|--|----------|
| 2-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか          | 学校の目的、目標に基づいた学校運営方針は明確である。運営部、教務課、学生課、進路支援センターにおいて毎年度始めに目標や職務分担が作成され、全教職員に認識されると同時に活動の基軸となっている。運用についてもスムーズに展開できている。 | 4    | 現在の取組を継続する。  |          |
| 2-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか         | 運営方針に沿った事業計画を策定し、実行のための予算を作成している。   | 4    | 現在の取組を継続する。  |          |
| 2-3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか | 本校を含む学園全体の運営組織は健全に機能しており、変更がある度に校務分掌一覧を配布している。意思決定機能は、学園では寄附行為により、また学校では学則等により、明確化されている。                            | 4    | 現在の取組を継続する。  |          |
| 2-4 人事、給与に関する規程は整備されているか          | 人事は就業規則により、給与は教職員給与規程、退職手当給与規程等により、整備されている。   | 4    | 現在の取組を継続する。また、次年度以降、業務に対するモチベーションアップや組織の活性化を目指して、教員に対して評価手当の導入を検討するとともに、それに係わる規程等も整備したい。 |          |

|  |   |          |                    |                                   |
|--|---|----------|--------------------|-----------------------------------|
| <p>2-5 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか</p>  | <p>運営部、教務課、学生課、進路支援センター、事務局等の管轄部署を区分けして整備されており、それぞれの職務責任者が各部署とも連携を取りながら意思決定を図っている。財務事項については、理事会・評議員会を年に最低2回は開催し、財務安定化についての議論を行っている。これらの意識決定は、稟議が上がってきたとき、局長・校長・運営部長で協議し、時には理事長を交え行うなど、そのシステムは整備されている。更に、学校運営に関する諸問題や改善策は、定例あるいは臨時の教員会議で迅速かつ慎重に議論を行い、実行に移している。</p> | <p>4</p> | <p>現在の取組を継続する。</p> |                                   |
| <p>2-6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</p> | <p>入学当初に諸規定等を記載した学生便覧を配布しており、常日頃より実習朝礼や毎週実施されるホームルーム等を通して法令遵守の重要性等を指導している。また、1年次の学科「社会教養学」、3年次の学科「ビジネスマナー」にてコンプライアンス教育を実施している。さらに、留学生には「留学生ハンドブック」を作成配布し、アルバイト条件など留学生として法令で定められた義務等を徹底的に指導している。</p>   | <p>4</p> | <p>現在の取組を継続する。</p> | <p>SNS での発信に関する教育などは実施しているのか？</p> |

|                               |   |   |                            |  |
|-------------------------------|---|---|----------------------------|--|
| 2-7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか  | ホームページにおいて、学校概要やシラバス、職業実践専門課程の情報、財務状況等を開示し、積極的に情報公開を行っている。また日頃の活動内容についても SNS 等を通じて周知に努めている。 | 4 | 現在の取組を継続する。                |  |
| 2-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 成績処理や出席管理は本校独自のシステムを構築し、迅速かつ正確に行われている。  | 4 | 今後も現状に即したシステムの効率化を図って行きたい。 |  |

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

#### 課題と今後に向けての考え

- ・業務効率向上のために ICT 化を推進する。
- ・ホームページや SNS を活用し、今後も積極的な情報配信に努めたい。
- ・評価項目を定め、教員の評価手当導入を検討したい。

(3) 教育活動

| 評価項目   | 具体的取組  | 自己評価 | 課題と改善策   | 評価委員会の意見 |
|--|--|------|--|----------|
| 3-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか                  | 教育課程の編成については、教育理念を踏まえ国土交通省の規程に沿って編成されている。また、実施方針等は校長・運営部長・各学科長らで策定し、教員会議に諮られている。さらに、「教育課程編成に関する規程」を定め、教育課程編成委員会の意見を反映させている。  | 4    | 定期的に見直しを行っており、特に課題を感じていないが、より良いものにしていくためには全教員が意見を述べやすい環境も整備したい。  |          |
| 3-2 教育理念、育人人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した時間の確保は明確にされているか | 教育理念、育人人材像や業界ニーズを踏まえたカリキュラムを編成し、各学科長・教務課が主体となって各科目のシラバスを作成し、その中で学習時間の確保を明確にしている。なお、定められた時間内では学習到達目標に達しない学生については、学科再試験前に補習授業を実施した。  | 4    | 昨年度は、学習到達目標に達しない学生に対して定期試験前の休講期間を使用して補習を実施したが、コロナ禍での臨時休校があったため日程が詰まり、今年度は実施できなかった。一度きりで効果が計れないため、次年度は改めて実施したい。 |          |
| 3-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか                          | 各学科の目標達成に向けたカリキュラムは、国土交通省指定の教育科目を踏まえて体系的に編成されている。今年度は、新カリキュラムへの移行が完了した。4年次の大幅な時間数の削減により、5限目以降は放課することもできたが、この時間を有効に使い、国家試験対策を計画的に行うことができた。また1年次も同様に、5限目以降の時間を使い、留学生の日本語授業等に充てることができた。 | 4    | 新カリキュラムへの移行が完了し、授業以外に充てられる時間ができたことから、この時間を有効活用し、成績下位者や理解するまでに時間を要する学生に対しての対策を取っていきたい。                          |          |



|  |  |          |   |  |
|--|--|----------|---|--|
| <p>3-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p>      | <p>業界と連携した実習やインターンシップを実施し、キャリアアップに努めている。教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会での意見についても積極的に導入している。また、職業人としての能力を身に付けることを教育目標の一つとし、クラス担任を中心に学生指導を徹底している。</p>   | <p>4</p> | <p>現在の取組を継続する。</p>  |  |
| <p>3-5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</p>        | <p>企業及び業界団体から委員を迎えて教育課程編成委員会を年2回開催している。その中で、カリキュラムを見直し、シラバスに反映している。</p>  | <p>4</p> | <p>現在の取組を継続する。</p>  |  |
| <p>3-6 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか</p> | <p>一級4年生時にインターンシップを実施し、毎日、レポート提出を義務付けている。また、担当教員は定期的にインターン学生受入企業を訪問して実施状況の確認及び調整を行うと共に、学生に対し適宜指導を実施している。また、1-5で述べたように、現在、1年生は希望者のみ、2年生は受入れ可能な企業へ依頼してインターンシップを実施している。さらに、企業と連携し、2年生に対して、企業より現役メカニックを本校に派遣していただき、プロ目線で実習のサポートをしていただいた。</p> | <p>4</p> | <p>今年度は試験的にエンジン実習に企業の方にサポートに入っていた。今後は、各実習場でもこのような取組を展開していきたい。</p> |  |

|   |   |   |   |                                |
|---|---|---|---|--------------------------------|
| 3-7 授業評価の実施・評価体制はあるか                      | 学生による授業評価は、前期と後期に年2回実施している。アンケート結果については、教員間で回覧し、相互評価することにより、各自の授業改善に生かしている。   | 4 | アンケートの回答及び集計に時間と記入の手間がかかっている。学生のスマホから手軽に回答できる仕組みなども検討したい。                                     |                                |
| 3-8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか           | 業界による外部評価は、学校関係者評価委員会により行われている。   | 4 | 学校関係者評価委員会にて評価をいただき、改善点を取り入れているので、特に課題を感じていない。  |                                |
| 3-9 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか        | 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は、学則や教務規程によって明確に定めている。特に、卒業の際、学生が身に付けるべき資質・能力についても、ディプロマポリシーを定めて判定している。学生には学則及びその他関連規程を掲載した学生便覧を全員に配布し、オリエンテーション等で周知徹底している。欠席した場合の補講完了に関する原則を学生便覧に記載した。 | 4 | 欠席した日から1週間以内に補講を完了するよう学生便覧（教務規程第19条）に記載したが、まだまだ徹底できているとは言えない。教員も含め、意識を高めていきたい。                | 1週間以内に補講が完了できないのはどのような理由があるのか？ |
| 3-10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 自動車整備士資格取得に向けたカリキュラムを編成している。成績が思わしくない者及び留学生に対しては、教員室内の常に教員の目が届く場所に机を配置し、対策を実施した。その他、就職の際取得しておけば有利な資格については、夏季・春季休暇等を利用し、資格取得のサポートを行っていたが、今年度はコロナ禍のため、案内を自重した。                | 4 | 最終的な目標である自動車整備士資格取得については、より確実な合格に向けた対策とその方法を、状況や学生の能力に応じて対応できるよう、全教員に意見を求めながらよりよい形を作り上げていきたい。 |                                |

|   |  |   |                                       |  |
|---|--|---|---------------------------------------|--|
| 3-11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか                    | 第一種養成施設の指定基準に準拠する必要があるため、資格や経験年数及び学歴等を満たした教員を確保している。また、一級未取得者であっても、上質な技術、高度専門知識資格を満たしている教員を確保している。                                 | 4 | 現在の取組を継続する。                           |  |
| 3-12 関連分野における業界等との連携において、優れた教員（本務・兼務含む）を確保しているか                 | 新規採用を行う際、3-11 を満足する教員を関連分野の業界から紹介いただき、人間性や教育に対する意欲などを面接で確認することで、若くて優れた教員を確保している。   | 4 | 現在の取組を継続する。                           |  |
| 3-13 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか | 整備振興会、マツダ、バンザイ、JAMCA などによる新技術研修は、毎年、順次教員が受講している。教員の指導力育成に関する研修は、JAMCA が主催して行われており、順次教員が参加している。また、講習に参加した際の資料等は回覧し、全教員が目を通すようにしている。 | 3 | 今年度は、ほとんどの講習が中止となったため、次年度は積極的に参加させたい。 |  |
| 3-14 職員の能力開発のための研修等が行われているか                                     | 外部講師を招き、事務職員に対して学生募集に関する戦略について、定期的に指導をお願いしている。留学生や日本学生支援機構奨学金に関する研修会には、教員とともに必ず参加している。   | 3 | 次年度は、職員が先方に出向き講習や指導を受けさせたい。           |  |

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

## 課題と今後に向けての考え

- ・教員会議の場で意見を聞く機会は増えたが、決まった教員からしか意見が出ないため、引き続き全教員が意見を述べやすい環境を整備することと、教員の意識改革を実施していきたい。
- ・教員自身の一級自動車整備士の取得率が100%となるよう教員の意識改革を図って行く。また、授業の内容プラス人材育成に必要と思われる経験知や暗黙知と呼ばれる教員の知識を、いかに学生に伝えていくかを引き続き全教員で検討して行きたい。
- ・事務職員に求める能力は多岐に亘る。今後とも継続して、能力開発に関する研修は積極的に参加させたい。
- ・企業側からの講師派遣実習または企業のトレーニングセンターへ出向いての実習が、学生・教職員に良い影響を与えている。今後も企業側とさらに連携して充実した教育活動の推進を図りたい。

(4) 教育成果

| 評価項目                 | 具体的取組   | 自己評価 | 課題と改善策   | 評価委員会の意見   |
|----------------------|---|------|--|--|
| 4-1 就職率の向上が図られているか   | 就職率は毎年 100%である。就職斡旋は、学校に求職希望を提示した学生を対象に行っている。懸念されていた新型コロナによる求人減少については、昨年度求人件数 241 社に対して、今年度 251 社であり、自動車整備士に対する企業側の求人ニーズは、依然として大きいものを感じられた。しかしながら、コロナの影響により、前期授業の 4 回分について自宅での課題授業を行った結果、社会教養学で面接や書類作成指導ができなかったため、これらを H.R.中に担任より指導を行った。最終的な面接指導や書類作成に関する指導は、クラス担任だけではなく、全教員できめ細かく行い、就職率の向上を図っている。今年度は企業による説明会や見学会は少なかったが、実施された説明会には積極的に参加させた。また、コロナ感染予防対策を徹底し、学内企業説明会を実施することにより幅広い視野を持つことができている。 | 4    | 卒業後の離職については、離職前や離職後に企業より連絡をいただくことも増えてきた。その場合は元担任から連絡をして本人にアドバイスをするようにしている。しかし、できれば離職前に学校としても対応ができるよう、連絡をお願いする。また、学校側が積極的に卒業生の離職の動向を把握できるようにするため、定期的な調査の実施を検討したい。 | 若年次の離職は、企業にとっても頭の痛い問題である。学生の仕事のイメージと実際の現場の状況のズレを少しでも埋めるよう事前に説明しているつもりであるが、先生方からもそういった話をしてもらえたと助かる。 |
| 4-2 資格取得率の向上が図られているか | 自動車整備士の資格取得については 100%合格を目指して、11 月から 3 月まで放課後受験予定者全員に対して全教員が「居残り対策」を実施し、資格取得率の向上を図っている。具体的に、二級でのクラス編成は習熟度別に 4 クラスとし、定期的  | 4    | 今後も一級及び二級自動車整備士資格については全員合格を維持するため、受験対策の改善に努めたい。さらに、授業中においても資格取得を意識した指導及び対策を検   | 引き続き高い合格率を維持していただければと思う。   |

|                           |   |          |   |  |
|---------------------------|---|----------|---|--|
|                           | <p>に筆記試験を実施し、クラスを入れ替えている。国家試験の基本的傾向は変わらないので学生個人の理解度を把握した上で分野毎に理解させることに重点を置いている。この結果、令和2年度の一級自動車整備士の合格率は100%であり、二級自動車整備士の合格率はガソリン、ジーゼルともに100%、また、三級二輪も100%であった。すなわち、卒業生、修了生の全員が受験したすべての試験に合格するという12年ぶりの快挙となった。</p>   |          | <p>討したい。</p>  |  |
| <p>4-3 退学率の低減が図られているか</p> | <p>退学の理由の多くは、欠席しがちになり学業不振に陥り退学している。従って、欠席する場合はクラス担任に理由を報告することを義務付け、欠席しないよう促している。成績不良の学生については、定期的にクラス担任と学科長が学生と面談する、場合によっては保護者も含めて面談し、勉学に対する意識向上や生活習慣などの改善をアドバイスしている。経済的な理由による場合は、日本学生支援機構の奨学金や企業奨学金を利用するよう勧めている。その他、進路のミスマッチングなどによる退学があるが、学校として、組織的、計画的に退学者の減少に努めている。成績不振の学生については、理解度を向上させるため前期及び後期の学科期末試験前に少人数での勉強会を開講した。これらのことに加えて、今年度は、各</p> | <p>4</p> | <p>次年度も今年度同様、退学率の低減のために様々な取組を行っていき、退学率を5%以下にしたい。そのために、学生と教員間の信頼関係をさらに構築して行くこと、また学生間での友人関係の悩みやトラブルなどを早期に察知する仕組みの構築などの検討を行い、退学率の低減を図りたい。また、社会的要因として、自動車整備士の社会的地位や自動車整備士資格取得の重要性の認知度が低いことが勉学を続ける上でネックになっていることも考えられ、大きな課題であるが、徐々に改善されてきている。</p> |  |

|   |  |   |   |  |
|---|--|---|---|--|
|   | <p>学科長が不定期に教室を巡回し、居眠りをしている学生に注意をして廻った。また、毎週金曜日の朝礼では、各教員が遅刻・欠席状況、学習状況並びに生活状況などについて、気になる学生を発表することにより、各教員がその学生に目配りや気配りすることができた。その結果、退学率は昨年度 8.95%であったが、今年度 6.25%に減少させることができた。</p>                             |   |   |  |
| <p>4-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>             | <p>卒業生全員の活躍や評価を把握するのは難しいが、企業との情報交換によりそれらを把握するよう努めている。その中で技能競技大会への出場や離職の状況も知ることができつつあるが、全体像の把握までには至っていない。企業には卒業生の活躍状況がわかれば教えて欲しい旨はお伝えしている。</p>  | 3 | <p>卒業生の活躍を把握するためには、企業との連携を密にする機会を多くする必要がある。また、企業へ依頼し、卒業生の状況について聞き取り調査も行う必要がある。さらに、卒業時に卒業生自ら活躍ぶりを本校に報告するようお願いする。同窓会の協力もお願いしたい。</p> |  |
| <p>4-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか</p> | <p>企業に対して卒業生の仕事ぶりや評価などについてヒヤリングを行い、仕事の内容やどのような能力を身につけておくべきかを授業の中で各教員が適宜学生に伝えている。また、可能な企業には説明会の時、卒業生に同行してもらい、仕事内容や整備士としてのやりがいなどについての話をお願いしている。さらに、企業と連携し、2年生に対して、企業より現役メカニックを派遣していただき、プロ目線で実習のサポートをしていた</p> | 3 | <p>卒業生と接することにより、学校教育においてどのような能力を身につけておくべきだったかなどについて聞き取り調査を行うことを検討する。また、キャリアデザインの構築や離職を防止するため、外部講師によるキャリア教育の実施を計画したい。</p>          |  |

|  |   |  |  |  |
|--|---|--|--|--|
|  | <p>だいた。昨年度、キャリア形成のための外部による講習会を検討するとしていたが、コロナ禍のため検討できていない。</p> |  |  |  |
|--|---|--|--|--|

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

### 課題と今後に向けての考え

- ・就職率は100%を維持しているが、就職後の離職率が増加している。企業から見た離職の原因などについて調査し、離職率増加に歯止めをかけたい。
- ・今年度は、卒業生と修了生のすべてが受験した自動車整備士の国家試験に合格させることができた。次年度もすべての試験で100%合格が維持できるよう、一層の改善工夫が必要である。
- ・退学率低減については、ここ数年の大きな課題である。今年度の退学率は6.25%で、昨年度と比較して退学率を2.70%減少させることができた。しかし、退学理由は、欠席による勉強意欲の衰退と経済的事由が目立っている。今後は、退学率5%以下を目指して、自動車整備の社会的意義や楽しさを伝えながらも躰教育の両立を検討し、魅力ある人材の育成に努めることが必須課題である。

**参考資料**：令和2年度における退学率、自動車整備士合格率並びに就職率

#### 1) 退学率

6.25% (2019年度 8.95%)

#### 2) 自動車整備士合格率

一級筆記 100% (2019年度 92.3%) 2年次修了時に全員二級ガソリン、ジーゼル取得済

二級ガソリン 100% (2019年度 92.0%)

二級ジーゼル 100% (2019年度 84.5%)

#### 3) 就職率

就職希望者に対して 100% (2019年度 100%)



(5) 学生支援

| 評価項目                       | 具体的取組   | 自己評価 | 課題と改善策  | 評価委員会の意見 |
|----------------------------|---|------|---|----------|
| 5-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 本校では「進路支援センター」を開設し、職業指導の基本方針、対策、情報収集、求人開拓のための企業訪問等を積極的に展開し、多数の求人獲得に努力している。その結果集められた資料は、就職を希望する本校学生全てが自由に閲覧でき、就職活動の指針となるようにしている。また、クラスによって指導内容に差が生じないよう担任への就職活動取組指導に努め、担任及び進路支援担当教員が面接指導や書類作成に関してきめ細かく指導を行うよう支援体制を整えている。企業説明会については、開催形式を変更し、各企業が魅力をアピールできる態勢を作り、希望先への就職活動支援に努めている。 | 4    | 早期離職者減少のためにも、企業とのミスマッチをできるだけなくせるように企業研究をしっかりと行うよう指導に努めたい。 |          |
| 5-2 学生相談に関する体制は整備されているか    | 学生からの相談は、主にクラス担任が対応するが、相談内容によっては複数の教職員が関わるようにし、教職員間の情報共有を密にしている。また、セクハラに関する相談も女性教職員が担当し、気軽に相談できる窓口も用意され、女性教職員採用で女子学生の相談体制も整っている。  | 4    | 現在の取組を継続するが、特に、人間関係に関する案件については慎重に対応する必要がある。               |          |

|                             |  |   |   |  |
|-----------------------------|--|---|---|--|
| 5-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | <p>入学金の減免、授業料の減免、日本学生支援機構等の奨学金制度、企業奨学金制度、学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能している。また、今年度から高等教育の修学支援制度に係る給付型奨学金（授業料等減免策を含む）も導入し、経済的な理由による退学者の減少に努めている。さらに、令和2年度は新型コロナウイルスに対する各種補助金の周知および申請手続きを積極的に行っている。</p> | 4 | <p>今後も給付型奨学金や補助金等の周知および申請手続き等を積極的に行い、経済的な理由による退学者を出さないように努めたい。貸与型奨学金の適正額（借りすぎ等）の判断が難しい学生にとって最も良い金額に設定するように指導している。</p> |  |
| 5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか      | <p>年に一回の健康診断を行い、学生の健康管理は適切に実施されている。再検査が必要な学生に対しては再診することを指導し、結果の提出をお願いしている。</p>   | 4 | <p>現在の取組を継続する。</p>  |  |
| 5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか   | <p>課外活動は、授業時間数が多い中では、十分に活動できているとは言えない。学校として場所（工房）と予算を提供する支援体制は整えている。</p>   | 3 | <p>学生が自主的に課外活動を提案してきた場合、積極的に支援していきたい。課外活動は同好会顧問のボランティア精神によるところが大きいので、今後は顧問への支援体制強化を検討したい。</p>                         |  |
| 5-6 学生の生活環境への支援は行われているか     | <p>生活環境改善の一環として、遠隔地出身者について指定民間宿舎を優先的に紹介し利用させており、支援は行われているが、近年、一般のアパートでの一人暮らしが増加しており、規則正しい生活が送れるようクラス担任を中心に支援・指導を行っている。</p>   | 4 | <p>クラス担任を中心によりきめ細かな支援・指導を行いたい。</p>  |  |

|                    |  |   |                                    |  |
|--------------------|--|---|------------------------------------|--|
| 5-7 保護者と適切に連携しているか | 中間と期末の試験結果を保護者に郵送し、保護者からも学生の生活環境の改善指導をお願いしている。さらに、必要に応じて「電話連絡」により学生の状況を保護者に報告するなど、保護者と学校が情報共有することに努めている。また、2019年度より導入した出席管理システムを、保護者との連携、学生指導に有効利用している。  | 4 | 可能な範囲において十分な連携が図られており、特に課題を感じていない。 |  |
| 5-8 卒業生への支援体制はあるか  | 卒業後、何等かの都合により離職した卒業生に対する就職支援を準備しており、利用者は増加する傾向にある。同窓会事務局を教員室内に設置し、校内にて定期的に同窓会役員会を実施し、総会の案内事務も行っている。また、卒業後の状況については、就職先企業の人事担当者や先輩OBからの報告連絡及び卒業生本人からの相談等に応じるなど、フォローアップに努めている。さらに、卒業生への活動報告や連絡事項については、本年度、同窓会専用のホームページを開設し、本校ホームページと併せて情報を発信している。卒業後、二級自動車整備士の国家試験を不合格となった場合、希望者に対して学内で受験勉強を指導している。 | 4 | 現在の取組を継続する。                        |  |

|   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|--|
| 5-9 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか                | 「進路支援センター」を中心に企業ニーズの聞き取りを行い、それをカリキュラムに反映させている。また、職業実践専門課程として企業に授業を実施していただき、企業ニーズを直接学生に伝える企業講習も増やしていけるよう取り組んでいる。 | 4 | 企業が気軽に企業ニーズを発することができる体制作りを継続検討する。また、集められた企業ニーズをいかに授業に取り込んでいくかの工夫をさらに積極的に検討する。 |  |
| 5-10 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 高校に出向いて、自動車整備士の仕事や整備士業界の動向を紹介するとともに、自動車整備の模擬授業も展開している。また、高校訪問を行い、高校側が望む内容で職業教育を実施できるよう取り組んでいる。                  | 4 | 現在の取組を継続する。   |  |

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

#### 課題と今後に向けての考え

- ・ 課外活動は、時間的余裕もなく、学生自ら課外活動を行いたいとの要望がほとんど挙がらず、教員主導のカート走行会等、散発的に活動している状態である。今後は、学生が中心となって取り組める活動、およびその環境整備を行いたい。
- ・ 社会のニーズを踏まえた教育環境を整備するため、企業が気軽にニーズを発することができる体制作りを継続検討する。また、集められた企業ニーズをいかに授業に取り込んで行くかの工夫をさらに積極的に検討する。
- ・ 就職活動を含めた学生相談をよりきめ細かく行っていきたい。
- ・ 給付型奨学金や補助金等の周知および申請手続き等を積極的に行い、経済的な理由による退学者を出さないように努めたい。
- ・ 卒業生支援については、本年度、同窓会に同窓会専用のホームページを開設し、情報の双方向通信ができる環境を整えていただいた。発信情報の内容等ホームページの効果的運用については、今後、同窓会理事会等を通じ検討していきたい。

(6) 教育環境

| 評価項目                                   | 具体的取組   | 自己評価 | 課題と改善策  | 評価委員会の意見  |
|--|---|------|---|---|
| 6-1 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか    | 施設・設備は、第一種養成施設の指定基準を満たし、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている。教育用機器・教材に関しては、実習計画に沿って年度毎に計画的に購入している。今年度は、昨年度末に導入したトヨタプリウス（ZVW30）を二級課程シャシ実習場に3台、同エンジン実習場に3台、一級課程に4台を配備しHV車特有の実習を実施した。また、福岡県内の養成施設としては初めての特定認証を取得した。申請において特定整備に対応するスキャンツールを1台追加導入し、併せて、既存する3台について特定整備対応のアップデートを実施した。さらに、本校同窓会より老朽化していた共用工具のセット並びに新型コロナウイルス感染対策としてサーマルカメラ（タブレット型非接触体温計）を寄贈いただいた。対面による授業継続の安全確保の観点から、校内駐車場を整理開放し自家用車による通学を推奨した。 | 4    | 一級課程のカリキュラムの中で特定認証を活かせるような内容を検討していきたい。この度の新型コロナウイルス感染拡大により、授業形態を対面授業だけでなく、オンライン授業も実施できるよう本校の情報通信環境の構築を図る必要がある。また、共用工具については、同窓会より寄贈していただいたものと同等のものを今後各実習場へ計画的に導入していく。現在、老朽化した教育棟を一部解体し、新築工事を行っている。その際、既設の教室も含めプロジェクターなどの教育用情報機器の充実を図りたい。 | ハイブリッド・バッテリーの脱着作業について、多回数行うことに対する安全性の確保はできているか？ |
| 6-2 学外実習・インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備して | 一級課程のインターンシップは、第一種養成施設指定基準として明確に定められており、3-6で述べたような教育体制を十分に整備し、確実な学習成果を上げている。二輪自動車整備士コースは、   | 4    | コロナ禍の状況におけるインターンシップの協力依頼は、非常に心苦しい面があった。この辺りは国土交通省の方で対策は取られたが、現実   |   |

|                       |  |   |   |  |
|-----------------------|--|---|---|--|
| いるか                   | 学外実習として指導教員が引率して自動車学校へ行き、実際に使用されている二輪車の整備・点検を行っている。残念ながら、タイへの海外研修旅行は中止とせざるを得なかった。                      |   | 的ではなかったため、指定時間数の削減なども検討していただきたいところではある。海外研修は情勢を勘案しながら、計画していきたい。 |  |
| 6-3 防災に対する体制は整備されているか | 災害時の連絡体制については、緊急連絡放送や避難経路・避難場所を各教室に掲示することで対応している。緊急時の連絡体制は学生にも周知しており、また、消防署と連携し、学生も含め学園全体で訓練を毎年実施している。 | 4 | 現在の取組を継続する。   |  |

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

#### 課題と今後に向けての考え

- ・昨年度導入したプリウスについては、ハイブリッド・バッテリーの脱着作業や、ブレーキ整備などを実施することができた。今後も、実習車両は入れ替えや廃棄を含めて継続して検討していきたい。
- ・教室改装の際、次年度に向け教育用機器等の充実を検討する。
- ・防災に対する体制は、消防署立会いのもと学園全体で実施しているが、災害発生時の具体的な行動基準を定めた災害対応マニュアルを作成し、全教職員が認識しておく必要がある。

(7) 学生の受入れ募集

| 評価項目                   | 具体的取組   | 自己評価 | 課題と改善策   | 評価委員会の意見 |
|------------------------|---|------|--|----------|
| 7-1 学生募集活動は、適正に行われているか | <p>H29年度より立ち上げられた「募集戦略室」の活動は再構築され、今年度新設した運営部が中心となり、募集計画素案を協議し、教員会議での審議・報告により方向性の共有や計画実施を進めている。また、募集活動全般を効率的に実行するため、教員室に入試課員を配し、従来から存在している各制度の見直しを行うなど環境の変化に適応しながら状況を分析し、学生募集活動は適正に行っている。本校ではオープンキャンパス（OC）に参加した高校生が受験するケースが多いので、OCにおいて本校の魅力や自動車整備士の社会的意義などを伝えられるように工夫している。ホームページのリニューアルにより動画配信も含めて本校の情報をわかりやすく閲覧者に伝えられるようにした。昨年度までは遠方の地域へのガイダンスには参加していなかったが、見直しを行い実績がある高校が参加する会場型や、実績校内でのガイダンスには参加するようにした。また、職員による高校訪問の頻度を増やし、高校教員からも少しずつ顔を覚えてもらえるようになった。なお、留学生の受入を平成30年度より実施しているが、昨年度より入学予定者の5%前後を留学生受入人数としている。</p> | 4    | <p>まだまだ本校の認知度は低いのが現状で、地元に住んでいる高校生や保護者世代の方からも、何の学校なのか知らなかった、どこにあるのか知らなかったという声もあるため、県内広報活動の展開に加え、県外にも積極的に活動したい。今までは実施したことが無かったが、県外に出向いての出張オープンキャンパス等も計画したい。今年度は学生募集体制を大幅に変更し、その効果も表れているが、他の教員の協力も得るなど広報活動をさらに盤石なものにしていきたい。</p> |          |

|                                 |  |   |  |  |
|---------------------------------|--|---|--|--|
| 7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 教育成果である資格取得状況や就職状況は、志願者が専門学校を選択する上で大変重要な判断材料であるため、教職員が志願者や各高等学校でガイダンスを実施する際に正確に伝えている。また、このことは、ホームページでも情報を公開している。さらに、教員によるガイダンス実施は、一部の教員ではなく、他の教員も実施できるよう養成を行っている。                                  | 4 | 現在の取組を継続する。                                |  |
| 7-3 学納金は妥当なものとなっているか            | 高騰している諸経費や安全・環境性能が著しく進展している自動車技術に対応する高度な教育環境を整える目的や、消費税増税に伴う諸経費の増加により、今年度入学生より入学金および授業料を変更した。2年制及び4年制ともに金額変更前から在学中の校納金総額が40,000円上昇する。ただし、入学金は100,000円減額し、入学手続き時の経済的負担を軽減するようにしており、学納金は妥当なものとなっている。 | 4 | 現状を維持するが、物価等の状況を踏まえた学納金の見直しは今後とも引き続き検討したい。 |  |

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

#### 課題と今後に向けての考え

- ・ 学生募集については、厳しい状況にある。福岡県専修学校各種学校協会や高等学校進路指導研究会による取り決め事項等を遵守した上で、志願者が適切な進路選択が行えるよう、パンフレットや進路情報企画への掲載、ホームページでの情報公開、オープンキャンパスの開催と内容の工夫、高校ガイダンスへの教職員派遣などにより、さらに広く情報提供を行っていく必要がある。
- ・ 自動車は国の基幹産業であり、その安全と安心を確保するためには自動車整備士の存在は不可欠であるが、近年慢性的に整備士は不足している。整備士の不足をアピールするとともに、先進技術に対応するメカニックの重要性を強くアピールし、積極的な募集活動を行っていきたい。



- ・ 二輪コースが九州中四国で唯一のバイク専門コースであることの強みを生かし、九州中四国地域に募集活動を展開したい。
- ・ 教員によるガイダンス実施は、一部の教員ではなく、他の教員も実施できるよう養成を行っており、その取組を継続する。
- ・ 今年度より、学生募集の体制を大幅に見直し、今まで取り組んだ事の無かったことにも積極的に取り組んできた。その結果、コロナ禍の状況下において次年度入学予定者は今年度を上回る見通しとなった。今後もオープンキャンパスの質の向上や、積極的なガイダンスへの参加、教員の学生募集に対する意識の向上に取り組んでいきたい。

(8) 財 務

| 評価項目                         | 具 体 的 取 組  | 自己評価 | 課 題 と 改 善 策  | 評価委員会の意見 |
|------------------------------|--|------|--|----------|
| 8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 一切の負債を抱えておらず、財務基盤については現状では安定しているといえる。しかしながら、学生からの学納金で学校運営経費が十分に賄われていない。4-3 で述べたように、今年度の退学率は減少しており、学校運営経費を賄う上で少しではあるが、貢献できている。また、学納金収入の安定化については、短・中期ビジョンの中で達成を目指し、7-1 で述べたように、運営部が中心となり、入学者確保へ向けた策を種々講じ、実践した。その結果、次年度入学予定者は今年度を上回る見通しである。 | 3    | 次年度の入学者増の中で、一級自動車整備科（4年制）への入学予定者数が1.5倍に伸びており、3・4年生の在籍者数が増加することになり、財政基盤の安定化につながる。今後、財政基盤をより改善するために、入学者数の増加と退学率の減少に向けて、更なる対応策を検討する必要がある。また、学校運営経費の中で、人件費が大きな割合を占める。教員数の減少は運営経費の削減にはなるが、他の教員への科目担当の増加や学生サービスの低下が懸念される。これらのことを念頭に置きながら、次年度以降、補充人事を行うか否かを慎重に検討すべきである。更に、国土交通省の自動車整備士制度の改正や社会のニーズを見据えた適切な収容定員規模の見直し、及びそれに沿った人員体制の見直しも今後の検討課題である。 |          |

|                              |   |   |                |  |
|------------------------------|---|---|----------------|--|
| 8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 毎年度3月までには次年度予算を立て、収支計画を行っている。収入に即した支出計画となるよう節約に努め、長期的な事業計画については適切な支出を行っている。 | 4 | 現在の取組を今後も継続する。 |  |
| 8-3 財務について会計監査が適正に行われているか    | 顧問税理士の指導の下、定例の会計監査を適正に実施している。監査で指摘を受けた際には直ちに改善を行っている。                       | 4 | 現在の取組を今後も継続する。 |  |
| 8-4 財務情報公開の体制整備はできているか       | 毎年度の決算については、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照法、財産目録等をホームページに公開している。                    | 4 | 現在の取組を今後も継続する。 |  |

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

#### 課題と今後に向けての考え

- ・ 財政基盤の安定化に向け、入学者の確保、特に一級自動車整備科（4年制）の入学者数の増加と退学者の低減に引き続き努めていきたい。

(9) 法令等の遵守

| 評価項目                              | 具体的取組  | 自己評価 | 課題と改善策  | 評価委員会の意見 |
|-----------------------------------|--|------|---|----------|
| 9-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 法令や設置基準、監督官庁の許認可などの届出等は適正になされ、それらについては遵守と適正な運営を行っている。                                    | 4    | 法令遵守の取組は信頼の基盤であるので、法人事務局や教育現場においても現在の取組を今後も継続する。                |          |
| 9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか    | 個人データの電子記録の取り扱い、紙面による情報の漏えい防止等学校が有する個人情報の取得や利用は、作成したプライバシーポリシーに則り適正な管理を行っている。            | 4    | 現在の取組を今後も継続する。  |          |
| 9-3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか         | 学校や各教員を対象に自己点検・評価を実施し、毎年見直しを行っている。その内容については学校関係者評価による検証も行っている。抽出された問題点は改善し、本校の健全性を保っている。 | 4    | 定期的に確認することにより、結果として自己点検・評価のレベルアップに繋がっているため、今後も継続し、精度を向上させていきたい。 |          |
| 9-4 自己評価結果を公開しているか                | ホームページにおいて、自己点検・評価ならびに学校関係者評価の結果を毎年7月に公開している。  | 4    | 現在の取組を今後も継続する。  |          |

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・ 自己点検・評価については毎年見直しを行い、結果として多くの項目の改善に繋がっているため、今後も現在の取組を継続する。
- ・ 学校関係者評価においても継続効果が表れており、良い方向に進んでいるため、今後も現在の取組を継続する。

(10) 社会貢献・地域貢献

| 評価項目   | 具体的取組  | 自己評価 | 課題と改善策                           | 評価委員会の意見 |
|--|--|------|----------------------------------|----------|
| 10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を積極的に実施しているか        | 今年度は新型コロナウイルスの影響で実施できなかったが、平成29年度より学園祭において『北大モーターフェス』と称し、国産車・輸入車ディーラー様から様々な車両を出展いただき、学生だけでなく地域の方々にも車両を見学していただける機会を設けている。また、英検、公文、自動車整備士国家試験などに試験会場として教室を貸し出し、ハーレーダビッドソンジャパンやボッシュ、ネッツトヨタ北九州などには講習会会場として実習場などを貸し出している。 | 4    | 現在の取組を継続する。                      |          |
| 10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか                      | 年2回の献血活動を行っている。また、北九州市の「まち美化キャンペーン」に全学生が参加し、地域の清掃活動をしている。  | 4    | 現在の取組を継続する。                      |          |
| 10-3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受諾等を積極的に実施しているか | 本校への入学者増のために、提携高校を対象に、高校生を本校に招き、本校施設を使用した体験授業を実施している。また、福岡県自動車整備振興会の技術講習を北九州分教場として受諾している。  | 4    | 提携高校在校生を対象にした体験授業を継続、発展できるよう努める。 |          |

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

### 課題と今後に向けての考え

- ・学校の施設貸出等は地域や業界への貢献の一環として、今後も積極的に行っていく。
- ・年2回実施している献血活動では、学生に積極的に参加してもらっており、今後も継続していきたい。

(11) 国際交流

| 評価項目                                    | 具体的取組   | 自己評価 | 課題と改善策  | 評価委員会の意見 |
|---|---|------|---|----------|
| 11-1 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか         | 日本での自動車整備士の人材不足を補うことと、東南アジアにおける日本車の進出に伴い母国で必要とされる自動車整備士の養成を目指して、平成30年度に9名の留学生を受け入れた。しかし、今後の留学生受入れ戦略は、学生数確保の手段とするのではなく、あくまで世界各国で通用する優秀な自動車整備士の育成に力点を置く。このため、2019年度以降の入学試験合格者数は3~4名に絞っている。なお、本校学生の海外派遣は当分の間実施しない。 | 4    | 初めて留学生を受入れて3年が経過した。本校での日本語入学試験の最低合格点を引き上げたことにより、日本語能力・勉強意欲・生活態度などに問題がある者はほとんどいなくなった。また、留学生の教育や生活の指導が教職員一丸となって押し進められる体制の構築をさらに進める。 |          |
| 11-2 留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な体制が整備されているか | 教員室内に国際交流室を設置し、留学生の責任者と担当職員を配置している。この交流室での業務は、在留資格更新や資格外活動に関して適切な指導を実施するとともに、毎日留学生が登校していることを確認し、欠席した場合はクラス担任がその日に電話連絡するなど、適切な在籍管理の体制を整備している。  | 4    | 現在の取組を継続する。   |          |

|  |   |          |  |  |
|--|---|----------|--|--|
| <p>11-3 留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか</p> | <p>留学生の専門科目に対する学修は、教員全員が各担当科目の専門用語を中心に毎週水曜日の放課後に補講を行うことによって、ある程度補完している。また、1年次の定期試験には漢字にルビを振り、問題を理解して解答できるように努めているが、2年次は自動車整備士の国家資格取得対策として、ルビ振りは禁止している。留学生の入学手続きが完了した際、自動車に関する基本的な漢字を習得させるため、入学前トレーニングのテキストとその課題を配布し、解答を提出させ、添削を行っている。入学式直前の4月上旬には、本校の学則や守るべきルールについて、入学前教育を実施している。留学生の生活指導は、クラス担任を始め、国際交流室の職員がその任に当たっている。特に、アルバイトは夜10時までとし、定期試験において成績不良となった留学生には、アルバイト時間を半減させるか、禁止する措置を取っている。下宿先は、本校の指定民間宿舎を職員が斡旋している。さらに、留学生が快適で有意義な留学生活が送れるよう、学校内外の手続きや、留学生として知っておくべきこと、役立つ情報などを掲載した「留学生ハンドブック」を作成・配布している。なお、留学生に配布する書類については、できるだけ漢字にルビを振っている。</p> | <p>4</p> | <p>昨年度から各クラスの留学生数は1～2名であり、教員の留学生に対する修学指導や生活指導の負担は軽減できている。次年度以降も現在の取組を継続する。</p> |  |
|--|---|----------|--|--|



|                                     |   |          |  |  |
|-------------------------------------|---|----------|--|--|
| <p>11-4 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</p> | <p>留学生は、二級自動車整備士の国家資格取得に向けて勉学に励んでいる。この資格を取得することにより、企業への就職が可能となり、国内での評価も高まるものと考えられる。そのためには、専門科目の修得はもちろんであるが、日本語能力試験の N2 レベル取得を留学生全員に義務付けている。昨年度は、2 年次 3 名の内 1 名がすでに N2 を取得した。また、今年度は 1 年次 3 名の内 2 名が N2 に合格した。就職指導は、進路支援センターとクラス担任がマンツーマンで行い、卒業予定者 3 名全員の就職先が決定した。このことは企業において、留学生に対して高い評価が得られたものと考えている。さらに、二級自動車整備士の国家試験に関しては、特に留学生を対象に 1 月から特別指導を毎日教員室で行った結果、3 名中 3 名全員が合格であった。</p> | <p>3</p> | <p>二級自動車整備士の国家試験に不合格となる留学生は、日本語能力不足と専門知識不足の両面によるものと推測されるが、日本語能力不足による方が影響は大きいと思われる。実際、本校では、これまでに N2 取得者で国家試験に不合格となった者はいない。従って、N2 取得に向けた学習環境を整えていきたい。また、専門知識不足を克服するために、早い時期から留学生のみを対象とした国家試験の受験対策指導をさらに強化したい。そして、次年度以降も合格率 100%を目指したい。</p> |  |
|-------------------------------------|---|----------|--|--|

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

#### 課題と今後に向けての考え

- ・令和 2 年度は、2 年生 3 名（うち留年した者 1 名）の留学生が卒業した。1 年生は 3 名が入学し、全員が進級した。次年度は、教育体制や在籍管理をさらに強化し、今年度同様、原級留年や退学者を出さないようにしたい。
- ・漢字圏ではない留学生の最大の課題は、漢字の読み書きである。このことについては、時間をかけて習得させる他ないものと考えている。
- ・日本語能力試験 N2 合格者の増加と二級自動車整備士の国家資格全員合格に向けた更なる受験対策を検討する。
- ・卒業予定者全員が就職することができた。次年度も就職率 100%を目指して、就職指導に力を入れていく。